

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）活用実績

No	交付対象事業の名称	事業の概要	平成 27 年度 の 取組内容	花火産業構想推進プロジェクト会議による評価	事業費	目標指標(H27 年度)
1	大仙市総合戦略策定事業	製造業の産業集積と観光資源を有する本地域の特性を踏まえ、良質な雇用の創出と人口還流の加速による地域の活性化という好循環を生み出す「大仙市総合戦略」を策定するために、必要な専門的な調査等を実施する。	・人口動向分析および将来人口の推計調査 ・人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察調査 ・市民及び市出身者の将来意向に関する調査分析 ・総合戦略推進会議の開催		7, 878千円	
2	観光コンテンツ強化事業(大曲の花火を活用した、大仙市の観光コンテンツ強化(観光商品と特産品の開発、情報発信、花火のまちのイメージ確立)の取り組みを進める。)	(1)「花火のまちのまるごとスタンプラリー」の開催 市内で毎月打ち上げられる花火大会を巡るスタンプラリーを実施する。各会場内に設置されたスタンプを集め、景品が当たる抽選券として応募してもらうなど、能動的な観光体験を提供することにより、子供連れの家族を中心として、強力にコンテンツの魅力を発信する。 なお、景品は、市内の特産品や限定品等、観光客に魅力あるものを選定する。	・市内 5 花火大会(8 月「全国花火競技大会」、9 月「神岡南外花火大会」、10 月「大曲の花火秋の章」、2 月「刈和野の大綱引き」、2 月「太田の火まつり」を巡るスタンプラリーを実施し、123 人が応募。内訳は市内 32 人、県内 53 人、県外 38 人	・県外からの応募が3割を超えており、集客に一定の効果があった ・認知度を高め、参加者増加につなげる工夫が必要である ・会場周辺の飲食店など立ち寄り場所の情報も発信し、回遊性を高める工夫も必要である	1, 109千円	<div>■観光入込客増加数 (目標) 96,000 人 (実績) -15,415 人</div> <div>■観光入込客 実数 H25 年度 263.3 万人 H26 年度 263.1 万人 H27 年度 261.6 万人</div>
		(2)新規花火大会の支援等 新たな花火大会の開催や、既存花火大会に共同研究や原料開発事業の成果発表会を盛り込むなど付加価値をつけるほか、特色ある内容と誘客の期待がある大会等で「大曲の花火」ならではの昼花火を打ち上げるなど推進・支援する。	・27 年度、「大曲の花火秋の章」を始め、計 19 回の市内各花火大会または県外他市での交流事業において、花火打上を補助または委託	・大学との研究成果など新たな要素を取り入れるとともに、スタンプラリー開催事業等と組み合わせ、域外からの観光客増加を目指す必要がある ・外国人観光客の受け入れを推進するため、規模の大きな大会から他言語版プログラムの制作に着手する	25, 689千円	
		(3)まちなか花火デザインの導入 花火通り商店街や大曲通町地区第一種市街地再開発事業で整備される広場等への花火モニュメント・花火サインの設置、花火をモチーフにした道路等付属施設の整備、花火イルミネーションの設置などを行い、まち全体を華やかな観光都市へと衣替えすることにより、観光客の気分を盛り上げる魅力的な「花火のまち大仙」を印象づける取り組みを行う。	・8 月 8 日、JR大曲駅前に花火玉モニュメントを設置。なお、12 月 16 日、JRの事業でその上の壁面にイルミネーションが設置された ・JR大曲駅前地下道に花火のまちを印象付ける装飾を実施(3 月 28 日完成)	・花火モニュメントは記念撮影スポットとして活用が図られており、駅前地下道の装飾と合わせ、花火の街らしさが向上している	10, 110千円	
		(4)まちなか花火シアターの上映 大曲通町地区第一種市街地再開発事業で整備する南街区建築物壁面や施設等を活用した花火映像の映写など「花火のまち大仙」を印象づける取り組みを行う。 「大曲の花火」は我が国で最も権威のある競技大会として、過去に数多くの感動的なプログラムが演じられた。これを観光資源として、大画面と大音響で再現することによる実際の花火大会との相乗効果によって、各大会当日への誘客を図る。	・11 月 3 日、大曲ヒカリオオープニングイベントで健康福祉会館壁面に市内の各花火大会や観光イベント等を映写 ・12 月 31 日、カウントダウン花火イベントで映像を映写	・大曲ヒカリオのイベントにあわせ、継続的に映写し、花火大会等の観光客の増加につなげる必要がある	2, 592千円	

No	交付対象事業の名称	事業の概要	平成 27 年度 の取組内容	花火産業構想推進プロジェクト会議による評価	事業費	目標指標(H27 年度)
		(5)花火の地域情報発信 ・平成27年8月開局の「FMはなび」において、花火鑑賞士の資格を有するパーソナリティーによるコミュニティFMを通じた花火情報・各種イベント情報等花火のまちならではの情報発信を行う。 ・FMスタジオ周辺広場での毎月のイベント実施時、来場者に花火情報を発信する。特に、観光客の誘導や花火鑑賞のポイント(技術的な難易度や煙火事業者のバックボーン等)を説明することによって、来訪者の満足度を高める。	・8月8日にコミュニティFMが開局。花火大会や鑑賞方法に関する情報番組「花火の星」を毎週木曜 21:00～21:30 に放送(土日に再放送) ・「全国花火競技大会」、「神岡南外花火大会」、「大曲の花火秋の章」で会場から生中継を実施 ・スマートフォン用のアプリを開発しており、電波がないエリアでもネット配信で聴取可能となっている	・聴取率を上げるため、単なるイベント告知だけではなく、役立つ情報、耳より情報を取材し発信する必要がある ・ネット配信を浸透させるとともに、花火大会の開催時等には防災・交通情報を配信するためにも利用を促進する必要がある	4, 614千円	
		(6)花火学習プログラムの展開 花火を鑑賞する立場から花火の振興を支える人材の育成を図るため、市内外の人たちを対象に花火の学習プログラムを展開し、学び親しむ機会を提供する取り組みを行う。	・8月22日「大曲の花火」当日、花火鑑賞士会から協力をいただき、一般観光客を対象とした鑑賞方法の講習会を実施 ・1月30日、榊わらび座のミュージカル「どどお〜ん！大曲花火物語」の公演初日記念イベントで花火師によるディスカッションを実施	・コアな花火ファンだけではなく、広く一般を対象とした花火に関する知識の普及・啓発を通じ、「大曲の花火」以外の花火大会や花火の打ち揚がるイベントへ誘客を図ったが、観光客の更なる増加には講習会の継続的な開催と講師の担い手育成を進める必要がある	540千円	
		(7)「花火のまち・大仙」の「ひとくちお土産」の開発 「大曲の花火」の観覧客を狙ったお土産開発に取り組む。大仙のお土産を観覧客のさまざまなニーズに合わせてブラッシュアップする。デザインやサイズ、価格設定、ストーリーなど、統一コンセプトのもとで新たに開発したお土産を提供することによって、来訪者に買い物の楽しさを提供するとともに、地域の事業者の事業発展にも繋げることとする。	・観光物産協会で菓子詰め合わせ、日本酒セットの商品を開発し、パッケージを委託して制作 ・市内 4 事業者が行った商品開発に補助。「花火スティック」、「さけジャーケー」、「うさぎ肉ソーセージ」、「まるびちゃんサブレ」が完成	・独自に新商品を開発することは難しく、時間も要する。外部専門家にアドバイスをもらうことなども検討する ・商品開発には費用がかかる。補助金の活用でこれまで着手できなかった開発に取り組むことができ、一定の成果が上げられている	4, 204千円	
		(8)「大曲の花・美(はな・び)」開発 花火を模し同心円状に色違いになるように花(ダリア)の新品種を開発し、市内農家への栽培普及や新規就農者研修施設にて研修者への栽培実施をすることにより産地化を図り「八重芯」「花火」「大曲」などの名称をつけ「大曲の花・美」ダリアとしてブランド化し販売することによって、地域の農業振興の一助とする。 また、市内生花店からの全国発送や、インターネット販売、品種を限定しての市内道の駅、直売所等でのご当地限定販売などにより全国展開や誘客を図る。	・一次選考 21 品種に開発者推薦の 4 品種を加えた計 25 品種の中から、東京・大田市場の関係者によるアンケート調査も行い、オリジナルブランド「大曲の花火ダリア」として 4 品種を選定。現在、JA 秋田おばこが増殖に取り組んでいる ・名称は顕芯(けんしん)、八重芯(やえしん)、紫銀乱(むらさきぎんらん)、和火(わび)	・既に市場関係者から「大曲の花火ダリア」が欲しいという話が来ており、今秋の一部市場出荷を目指す ・農業科学館からは栽培、大曲農業高校からは培養の取組の申し出があり、産学官で連携し地域活性化に繋げる仕組みづくりが必要である	4, 144千円 (うち交付金充当 2, 944千円)	■お土産品売上増加額 (目標) 47, 200 千円 (実績) 18, 416 千円
		(9)「花火のまち・大仙」のネット・カタログ通販の実施 上記の取り組みを推進するために、リアル店舗のみならず、「花火のまち」のおみやげを扱った非店舗型のショッピングツール(web やカタログ)を制作し、地域の特産物の販売促進を図る。さらに、顧客データの分析により、よりニーズに沿った商品開発にも役立てることとする。	・観光物産協会が 8 月 17 日からカタログ販売を開始し、2 月末までの売上は 224 件で 665,463 円 ・観光物産協会が 10 月 20 日から楽天市場にネットショップを出店し、2 月末までの売上は 62 件で 197,504 円	・カタログ通販の利用者には商品発送と同時に再度カタログを発送するなど配布方法を検討する必要がある ・ネットショップの閲覧者を増加させるには、4 半期に 1 回程度の定期的な PR キャンペーンの実施が必要である	13, 225千円	
		事業 No.2の事業費合計 うち、交付金充当額			66, 226千円 64, 112千円	

No	交付対象事業の名称	事業の概要	平成 27 年度の実施内容	花火産業構想推進プロジェクト会議による評価	事業費	目標指標(H27 年度)
3	観光コンテンツPR事業(強化したコンテンツにより、魅力溢れるまちとして国内外へPRし、大仙市に足を運んでもらう取り組みを進める。その際は、東北を代表する観光地、角館、田沢湖を擁する仙北市等圏域の市町を結ぶ広域観光や都市農村交流などで連携を図りながら観光振興を進める。)	<p>(1)キャラバン隊によるPR活動と花火&観光モニターツアーの開催</p> <p>「大曲の花火」公式キャラクター「つつどん&たまちゃん・はなちゃん」及び大仙市マスコットキャラクターでキャラバン隊を組織し、有楽町と大宮市で市独自に開催する物産展、東北六魂祭(秋田市)、東京スカイツリーの「全国観光PRコーナー」で来場者に「花火のまち・大仙」の食や観光地、花火などをPRし、本市に来訪してもらうプレミアム旅行券の発行を行う。また、企業のホームページなど様々なメディアを通じて全国にPRする。</p> <p>併せて、地域の魅力創出のため、埋もれている観光資源を調査・発掘し、観光に必要とされる「遊び」「学び」「癒し」そして「食」等を組み合わせるなどして、県外向けに「新たな大仙市の魅力」をPRするため、花火大会を絡めたモニタープランを企画し日帰り又は1泊2日のツアーを実施する。</p>	<p>・大宮駅「あきた産直市」(6 月)、有楽町駅前広場「大仙市ふるさと物産フェア」(10 月)、東京スカイツリー「冬祭り体験PR」(11 月)など、首都圏で本市の観光物産をPRするキャラバン活動を実施</p> <p>・大曲エキまつり、首都圏からの誘客ツアー、カモースリング大曲など着地型イベントを実施</p>	<p>・キャラバン活動により大仙市の認知度向上は図られているが、観光客の増加には近隣の観光資源を組み合わせた観光コースのPRなど工夫が必要である</p> <p>・首都圏イベントで宿泊クーポン券を48人に配布したところ、14人が実際に本市へ宿泊しており、一定の成果が得られた</p> <p>・その場限りの販売ではなく、リピーターとなっていたく工夫が必要である</p>	16,632千円	<p>■観光入込客増加数 (目標) 96,000 人 (実績) -15,415 人</p> <p>■観光消費増加額 (目標) 887,902 千円 (実績) -142,573 千円</p> <p>■第 15 回国際花火シンポジウム(ホルター大会)での本市 PRブース来訪者数 (目標) 500 人 (実績) 305 人</p>
		<p>(2)「HANABI」インバウンドの推進</p> <p>国の「クールジャパン政策」により伝統文化などを各国の旅行エージェントに売り込み、外国人のインバウンド観光につなげる。</p> <p>2017年の国際花火シンポジウム招致に立候補しており、今年フランスのボルドーで開催される同シンポジウムとタイと台湾で開催される旅行商品造成の商談会に参加し大仙市の売り込みを行うほか、外国人が宿泊しやすい環境を整備する。</p>	<p>・9月18～28日、フランスで国際花火シンポジウム誘致活動と日系旅行会社へのトップセールス</p> <p>・タイ(6月15～20日)、韓国(10月5～8日)、台湾(11月10～14日)で旅行会社エージェントとの商談会に参加。韓国で2月10日「刈和野の大綱引き」のツアーが組まれ、18人の観光客が来訪。新作花火コレクションにタイのエージェント5名招聘、台湾の旅行ツアーは参加者不足のため未催行、国際花火シンポジウムプレ大会に台湾の旅行エージェント5名招聘。</p>	<p>・海外エージェントからは、秋田県の角館・田沢湖・なまはげは認識しているが花火大会は知らなかったとの意見が多数を占めた。毎月の花火大会と組み合わせPRすることが効果的である</p> <p>・国際花火シンポジウムの招致に成功しており、外国人旅行者の継続的な増加につなげる良い機会である</p> <p>・市内宿泊・商業施設を対象としたセミナーを開催し、語学力、おもてなし対応力の向上を図っていく必要がある</p>	16,816千円	
		事業 No.3の事業費合計 うち、交付金充当額			<p>33,448千円</p> <p>32,942千円</p>	

No	交付対象事業の名称	事業の概要	平成 27 年度の実組内容	花火産業構想推進プロジェクト会議による評価	事業費	目標指標(H27 年度)
4	ひと・しごとの全国展開事業(花火師の育成、花火玉及び原料の研究開発への取り組みや、花火玉製造過程のモニター見学並びに花火玉の模擬製造体験を通じた体験型ツアーも可能な新たな花火製造会社を設立し、花火の拠点化を進めることによって大仙市内の新たな雇用創出と全国各地へひと・しごと(汎用性が高く安全な花火玉や花火玉の原料)を展開し、2から4の総合的な取り組みで「花火のまち大仙」を国内外に売り込む。)	(1)花火の振興を支える人材の育成 市内をはじめ全国の花火製造会社の花火師を対象に火薬類製造保安責任者又は火薬類取扱保安責任者の資格取得とスキルアップを目的とした講座を開設する。 また、花火師希望者を対象に火薬類製造保安責任者又は火薬類取扱保安責任者の資格取得講座を開設し、市内をはじめ全国の花火製造会社へ資格を持った人材を輩出する。更に市内外で活躍する次世代の人材確保を目的に市内高校生を対象とした特別授業を行う。いずれも足利工業大学(花火大学院)に事業委託し実施する。これらの取り組みを実施することによって、我が国の花火産業全体の質の向上を図り、各地域における花火産業の発展にも貢献する。	・8月31日～9月4日、火薬類取扱保安責任者の資格取得支援講座を開催。市内花火会社から16人が受講し、9月6日の試験で12人が資格取得 ・高校生向けに足利工業大学煙火学出前講座を開催予定(3月15日～17日、大曲高校、大曲工業高校、西仙北高校、秋田修英高校、六郷高校) ・花火師向けスキルアップ講座を開催予定(3月16日)	・目標を超える実績を達成 ・(資格講座)北海道・東北の花火会社19社に案内を送付したが、初めての試みで開催日数が5日間のためか、県外の受講者はいなかった。27年度の実績を示して再度案内していく ・(資格講座)市広報・市HPで募集したが、花火会社以外からの受講はなかった。掲載時期を早めて周知を図る	725千円 (うち交付金充当363千円)	■火薬類製造(製造)取扱保安責任者資格者数 (目標)10人 (実績)12人
		(2)花火の共同研究・開発 足利工業大学(花火大学院)、大曲の花火協同組合と連携し、新素材(火の粉剤、色煙剤、発光薬、発射薬・割薬、発音薬)の開発や煙火の分析(技術、安全性)、新作花火の研究開発等の取り組みを行う。 研究成果は、市内花火業者に共通する技術として活用を図るほか、新たな花火玉製造会社も汎用玉の製造に利用し、製品出荷と雇用の創出を図る。	・大曲の花火協同組合に委託し、足利工業大学と連携した「明るく濃い青色」の研究開発を実施 ・大学が提供した配合比で市内花火会社が青色の花火を製作。3月19日の新作花火コレクションで各社がサンプル配合比に基づく試作玉の打上を行う	・開発には次の課題解決が必要で時間を要する ・明るく濃い青色を発色する新素材(ナーセム銅、グルコン酸銅)の提案があったが、高額(1kg当たり2～3万円)で頻繁に使用するのは困難である ・発色の良い素材であっても、保存方法、他の薬剤との相性、価格等の面で課題がある	2,877千円 (うち交付金充当1,439千円)	■花火の研究による試作玉開発数 (目標)4種類 (実績)※開発を継続中
		(3)「メイド・イン・大仙」の花火玉原料開発と普及 秋田県立大学と連携し、冬期間のハウス園芸用熱源として利用しているもみ殻(くん炭)や間伐材の松をはじめとする地域の農林資源の活用を研究し、花火の炭材に使用した「メイド・イン・大仙」の花火玉をつくる。研究成果は、新たな花火玉製造会社で炭材として加工し自社の製品利用のほか炭材として供給し、製品出荷と雇用の創出を図る。 また、秋田県産業技術総合研究センターの技術協力を得て市内事業者(株式会社セーコン)が開発し第1回「ものづくり日本大賞」で優秀賞を受賞したエコ玉皮(生分解性プラスチックを用いた玉皮)の普及促進に取り組む。	・大曲の花火協同組合に委託し、秋田県立大学と連携した花火玉の原料炭の開発を実施 ・県内産の松、杉、もみ殻等の成分分析を実施。もみ殻は炭素成分が少ないため不適。松と杉は炭材に利用可能 ・(株)セーコンが開発したエコ玉皮を購入する費用を市内花火会社と滋賀県の花火会社に助成。17,370発を出荷	・(炭)産業化するには、品質の安定した製造方法の確立、作り手の育成、伐採から粉碎までの生産コスト低減など課題解決が必要で時間を要する ・(エコ玉皮)補助予定期間内にできるだけ多くの花火会社で使用してもらい、受注増加に合わせ販売単価をいかに下げられるかが課題である	原料炭開発 6,138千円 エコ玉皮普及 2,210千円	■原料の研究による試作玉開発数 (目標)2種類 (実績)※開発を継続中 ■エコ玉皮出荷数 (目標)22,000発 (実績)17,370発

No	交付対象事業の名称	事業の概要	平成 27 年度の実施内容	花火産業構想推進プロジェクト会議による評価	事業費	目標指標(H27 年度)
4	ひと・しごとの全国展開事業(花火師の育成、花火玉及び原料の研究開発への取り組みや、花火玉製造過程のモニター見学並びに花火玉の模擬製造体験を通じた体験型ツアーも可能な新たな花火製造会社を設立し、花火の拠点化を進めることによって大仙市内の新たな雇用創出と全国各地へひと・しごと(汎用性が高く安全な花火玉や花火玉の原料)を展開し、2から4の総合的な取り組みで「花火のまち大仙」を国内外に売り込む。)	(4)花火創造企業の設立と支援 花火玉製造、イベントサポート、観光の各部門で構成される新法人を民間出資で設立し、大仙市を「花火の総合拠点」とするとともに、「花火」を活かした内発型産業の育成に向けた取り組みにより通年観光の実現を図る。 事務所棟をはじめ会議室や研修室を完備した研修棟、各工室(配合、星掛、仕込、玉貼)、乾燥室、火薬庫等を備え、就業 60 人を想定した工場を建設する。 地元花火業者からの委託加工や全国・海外の花火業者へ「メイド・イン・大仙」の花火玉の販売を展開する。また、モニター見学可能な工場とし、観光誘客を図る。 H27 に法人設立と工場用地の造成、H28 に工場・研修等施設整備を予定し、市単独事業として土地造成と雇用助成金交付を行う。	・9 月 30 日、㈱花火創造企業の事務所棟が完成 ・市が造成地の測量と造成工事実施設計を発注 (3～9 月) ・市が 2 箇年契約で造成工事を発注(9 月～28 年 7 月)。27 年度は表土保全工や仮設工事等の準備工を実施 ・㈱花火創造企業が 5 月 1 日付けで 5 人を新規雇用し、29 年度の工場稼働に向けて㈱小松煙火工業で研修中。市は雇用助成を実施	・事務所棟建設費補助と雇用助成により、目標と同数の雇用を創出した ・研修施設の整備については、新たに設備投資費用が発生することから、近隣施設の活用も視野に入れ検討する ・造成にあたり必要となった開発行為・林地開発の変更手続きについては、市都市管理課・仙北地域振興局との協議により円滑に進めることができた ・花火工場用地の範囲を確定するために火薬類取締法の審査が必要であったが、事前に県資源エネルギー産業課による仮審査を受け、工程を停滞させずに造成工事を進めることができた	事務所棟建設費補助 5, 000千円 	